

すもうのうんちく

『腰折田(こしおれだ)』

2017年。香芝市に大相撲地方巡業がやってきて、「香芝場所」が開かれました。日本書紀にも登場する「腰折田」という場所に記念碑が建てられ、それを記念しての地方巡業だったようです。これを観に行かれたおうちの方もおられたのではないのでしょうか？

この「腰折田」という地名ですが、日本書紀には、次のように記されています。「垂仁天皇七年七月七日に出雲(桜井市出雲)の土師部の祖とされる野見宿禰(のみのすくね)が、大和で剛力無双(ごうりきむそう)をうたわれた當麻蹶速(たいまのけはや)と相撲をとって勝った」「宿禰は蹶速の腰を折ってしまったので、蹶速の倒れたところが腰折田という地字名で残っている」

この伝承に残る「腰折田」という地名は、実は先生が30年も前に探したのですが、分からなかった地名なのです。初めて勤めた病弱の養護学校で、体育の授業で「すもう」を行い、その時に知った「腰折田」の地名を探したのですが、奈良県のどこにあるのか当時は分かりませんでした。それ以降は「すもう」を授業でやることもなくなったので「腰折田」をさがすこともなく分からないまま時間が過ぎてしまいました。それが、香芝場所開催というこの出来事で、30年来の謎が解けたのでした。「腰折田」は香芝市良福寺にあるのです。

今のみんなを4,5,6と受け持つ前は、2年生の担任をしていました。今の5年生です。自分達が住む地域に、相撲の発祥の地名が残されていることを知ってほしい、そして、すもうに興味を持ってほしいと思い、すもうの授業を行ったのです。



すもうの授業

すもうに必要なのは、土俵です。それで、あおぞら農園の横の砂場との間に、土俵を作りました。クワ、スコップ、バケツ、トンボなどを用意して、砂場の横に直径 4.4mの土俵を作りました。地面を耕し、その上に、砂場の砂をまきました。

1学期に6年生の市の陸上大会が下田小で開かれて、綱引きをしていた所、綱が切れるということが起こりました。その切れた綱を土俵の周囲に巻いて、土俵が完成しました。

それからは、毎時間相撲をやりました。投げ飛ばされて泣く人や、負けてすねる人がいっぱい出ましたが、みんなはすもうを楽しんでいました。



すもう はっしょうち
奈良は相撲の発祥地

相撲に関する史跡がたくさん残っています



『日本書紀』垂仁天皇七年七月七日の条に、「當麻郷には當麻蹶速という勇敢剛力がいて、天下に敵なしと豪語していた。天皇が群臣に力くらべ(角力)をすするものを求められた。そこで、出雲の野見宿禰が召され、兩人に力くらべをおさせになった。たちどころに蹶速は腰の骨を折られて死んだ。これにより、蹶速の領地が没収され宿禰に賜った」とあります。江戸時代に編纂された地誌『大和志』には、「腰折田は良福寺にあり」とみえ、兩人の決闘の地として今に伝えられています。この伝承は、奈良時代に宮中で始まる相撲節会(七月七日)の起源とされています。なお、葛城市當麻には、伝當麻蹶速塚とされる五輪塔が祀られています。

また、野見宿禰については、同三二年七月条に、殉死の悪習にかえ陵墓に埴輪を立てることを進言し、日菜酢媛命墓に埴輪を立てたことから土師職に任じられ、天皇

こしおれだ せんしょうち
腰折田伝承地

香芝市磯壁 良福寺付近

腰折田(香芝市良福寺)右:説明パネル付近にはまわしを締めた、洗ったとされる「まわし池」(香芝市狐井)もある。



相撲館「けはや座」(葛城市當麻)
相撲の資料館、館内には同サイズの土俵がある。



相撲神社(桜井市穴師)
歴代の横綱も訪れている。



當麻蹶速塚(葛城市當麻)



野見宿禰塚跡(桜井市出雲)
※野見宿禰の出身地については諸説有り。